

平成30年度

第2回駒ヶ根市総合教育会議

会 議 録

駒ヶ根市教育委員会

平成30年度第2回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

平成30年7月31日（火曜日）
駒ヶ根市役所保健センター2階大会議室
午前10時00分 開 会

1 市長・教育委員長あいさつ

2 報告事項

- ・第1回会議協議内容の状況について

3 協議事項

(1) 3カ年実施計画（平成31年度～平成33年度）について

○急激な少子化の状況について

市全体の人口動態、小中学校児童生徒数の推移、保育園等の入所児童数

- ・少子化の総論について
- ・小中学校、保育園等の施設について
- ・竜東給食センターについて
- ・高校再編について

○地域交流センター（赤穂公民館）等施設整備について

(2) その他

4 その他

次回総合教育会議 開催予定：11月

内容：平成31年度予算について

出席者

教育委員会

教 育 長	本 多 俊 夫
教 育 長 職 務 代 理 者	北 原 美 香
教 育 委 員	下 島 公 平
教 育 委 員	福 澤 惣 一
教 育 委 員	唐 澤 浩

市長部局

市 長	杉 本 幸 治
総 務 部 長	小 平 操

市長部局事務局職員

教 育 次 長	北 澤 英 二
子 ど も 課 長	北 原 純
社 会 教 育 課 長	小 出 孝 幸
保 健 セ ン タ ー 所 長	中 坪 美 智 子
教 育 総 務 係 長	山 本 和 重
教 育 総 務 係	小 松 義 知

会議のてんまつ

議事日程記載のとおり

午前10時00分 開会

○北澤教育次長 皆さん、おはようございます。

皆さんおそろいになりましたので、総合教育会議について始めていきたいと思えます。

今回は平成30年度第2回の駒ヶ根市総合教育会議を始めさせていただきます。

議事の進行については教育次長の北澤で進めていきたいと思えます。

それでは、最初に杉本市長お願いします。

○杉本市長 本日は、第2回目の総合教育会議ということで、教育委員の皆さんにも御出席いただきましてありがとうございます。

また、日頃は子どもたちのために御尽力いただいていること、改めてお礼申し上げたいと思えます。

本日の会議でありますけれども、これから3カ年の実施計画入っていきますので、予算等の必要な課題等について共有したいと思っております。

今日、また議題にさせていただければと思うのは少子化の関係です。お手元にも資料が幾つか出ていると思えますけれども、去年は子どもさんたちの数が少なく、思ったよりも少子化が進んできていると感じています。昨年一年間、1月から12月ですけれども、駒ヶ根市で生まれた人が236人ですので、我々の団塊の世代がちょうど700人いましたので、それと比べると約3分の1ですかね。236人っていう数字を、例えば小学校の学級数、35人学級にしても8学級ということになりますので、想像していただくとわかると思えますけれどもそんな状況になってきています。

施設管理をしていく上でも、将来を見越していかないと大変なことになるのかなとそんな危機感を持っております。それも、駒ヶ根市だけでなく、この間も飯島の町長さんと話して、給食施設つくるのに6億~7億円かかる。飯島町が昨年生まれた子どもが50人しかいない、中川村が1桁という中で、今度は施設を全部維持管理できない、伊南に一つでまとめてやってくれないかと、そういう話も出てきておまして、いろんな意味で連携をしていかないと、それぞれの基礎自治体が成り立たなくなってしまうのではないかという状況であります。

そうした中で、駒ヶ根市もこれから保育園の建て替えや新中学校といったこともあるわけですが、今日は、そういったことを念頭に置きながら教育委員の皆さん方と話をさせていただく中で、それらに向けてのいろいろな施策をしていけたらいいのかなと思っております。

それから、高校再編ですけれども、私が上伊那地域の高校再編に向けた上伊那の委員会を立ち上げまして、今、会長ということでさせていただいています。今まで2回ほど会議をさせていただきまして、今は、委員の皆さんから、この上伊那ではどんな高校教育をしてもらっているかということ全部出させていただいております。一つは、ぜひ子どもたちが郷土愛、このふるさとを思うような、そういったことを醸成してもらいたいというような意見がたくさんあるのと同時に、選択肢がたくさんあるような高校にしていきたいというような話も出たりしております。また一方で、上伊那に来たくなるような高校にもらいたいということで、この間も、具体的には、上伊那の高校に行くとなると少なくとも3年間のうちに1回は海外に留学できる、そういう高校にしたらどうかというような提案もありました。海外に行くお金は、全部県が持ったらどう

かという提案もあり、要するに、人が来てもらえるような魅力ある高校づくりというような、そんな提案も出てきております。

また、産業界の皆さんからは、地域に働き手がなくて困っているのも、ぜひ地域の企業に興味を持ってもらい地域を支えるような人材育成をしていただきたいという話が出ています。

今後は、そんな人材を育てていくために、この上伊那の方向がどうあるべきかという議論していけたらと思っております。関係者の意見を聞いてきて、これからは、高校の先生、同窓会の皆さんなどの意見を聞く中で一定の方向性ができればいいのかなと思っております。

あと、今年は自然災害が多く、6月の大阪の地震が風化してしまうくらい、その後の西日本を中心にした豪雨、その後の猛暑、それから今回の台風、自然災害に対する対応も非常に求められてきているかと思っております。特に、今年は酷暑ですので、今までの学校は、子どもたちは暑くても我慢みたいなことでしたけれども、果たしてそういうことができるかどうかについても検討していかなければいけないのかなと思っておりますので、また御意見等をいただければと思っております。

いずれにしても、教育等を取り巻くさまざまな自然環境、それから少子化といったことで、大きく動きが来ておりますので、皆さん方の御意見を聞く中で行政を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○北澤教育次長 続きまして本多教育長からお願いします。

○本多教育長 改めまして、おはようございます。

猛暑、炎暑の中、この第2回の駒ヶ根市総合教育会議に御出席賜り、本当にありがとうございます。

先ほど、市長さんからもありましたけれども、先週の市民総体、一昨日、二本松との交流、東伊那のキャンプ等、いろいろとありましたが、すべて臨機応変に変更するというようなことがありました。異常事態かなと思いますけれども、この臨機応変という言葉がとても大事で、それをするのは子どものためになるかという、あるいは市民のためになるかという一点で早目、早目に動いているのは大事なことかなと改めて思います。

2つ目ではありますが、教育は、学校と家庭と地域とで三位一体でいかないとだめだなということをつくづく感じております。少子化が加速度的に進んでおりますけれども、手をかけ過ぎてしまうと、内から育つ子どもはできませんので、何とか内から育つよう進めていただければなと思っております。

今日、夏休み親子工場見学がスタートしました。いろんな疑問を持って当たってくださいと話をしましたけれども、自分からまず考える子どもを育てていかなきゃいけないなあと思います。

本日は、よろしくお願いいたします。

○北澤教育次長 それでは、お手元の次第に従いまして会議を進めていきたいと思っております。

最初に、報告事項として、第1回の総合教育会議において教育委員さんから御協議いただいたことについて簡単に説明いたします。

1ページの(2)のイ)のコミュニティ・スクールの推進の部分では、赤穂小学校がこの4月1日から発足をいたしまして全小学校で開始になっております。特に赤穂小学校では登下校の見守り隊ということで力を入れておりまして、現在までに136名の登録をいただいているところであります。

続きまして、その上のロ) 学校支援ボランティアですけれども、登録数が現在 200 名であり、平成 30 年の新規が 10 名ということです。

1 ページの (2) のロ) ですけれども、キャリアフェス i n 赤穂中学校の部分ですが、今年赤中でやりたいということで準備会が 7 月 11 日に行われまして、11 月 16 日に開催する予定であります。

関連しまして、小学校のキャリアフェスで赤穂南小の食育フェスということで、児童 120 名、事業所等 18 の団体に参加いただきました。

続きまして 2 ページをご覧ください。

2 の幼児教育の推進の (1) のロ) ですが、十二天の森の関係であります。現在、自然保育の部分を進めていますが、平成 29 年度に県へ活動報告をしたり、県のホームページに掲載したりしている状況であります。

次に、2 ページの (4) の少子化対策の部分のハ) の保育料の軽減であります。ハ) は、3 歳以上児について、前回 D4～D7 階層を引き下げしましたが、今回、6 月議会で上伊那郡内の市町村と比較して高い 3 歳以上児の D8・D9 階層の引き上げを行う形で条例改正し、平成 30 年の 9 月から切り替えを予定しております。

3 ページをご覧ください。5 のエル・システム事業であります。ロ) の部分にありますが、赤穂東小をモデルとして平成 29 年度に実施したものを市内全域にということで体験会を 2 日間実施しまして、新規の申し込みが現在 74 名、継続で 18 名という形で、11 月 17 日の子ども音楽祭に向けて練習している状況であります。

4 ページをご覧ください。6 の生涯学習 (1) の十二天の森の関係ですが、整備の関係を含めて継続で地域の方と遊歩道整備や間伐の実施とウッドチップ化を 3 回ほど実施しております。本年度はため池の整備方法について検討する予定で進めております。

(2) のイ) ですけれども、地域交流センター (赤穂公民館) 等の整備につきまして各種検討会議、説明会等を実施して、現在、実施設計を進めている状況であります。

8 の (2) 国体の関係ですが、県の説明会等へ参加したり、関係団体の意向調査を実施したりしている状況ですが、施設整備等に課題がある状況であります。

第 1 回の状況については以上であります。

○北澤教育次長 続きまして協議事項に移ります。

第 4 次総合計画につきましては、策定された教育大綱に沿って事業を進めているわけですが、本日の総合教育会議では、向こう 3 年間の事業計画であります 3 カ年計画で計画すべき事業などを、課題等含めて意見交換をさせていただければと思います。

まずは、3 カ年計画の実施計画についてですが、参考までに資料 1 の 5 ページに 3 カ年計画の策定に当たりまして検討が必要と思われる部分を子ども課と社会教育課についてまとめてあります。

また、このほかに資料 2 の 2 ページ～8 ページですけれども、大綱に計画されました教育関係の施設整備の部分の特に 29 年度と 30 年度の整備状況について整理をしてある状況であります。内容については、学校関係、給食センターの関係、保育園の関係、つくし園の関係、地域交流センター等を 8 ページに記載させていただいております。

資料については、既に説明してありますのでここでは省略させていただきます。

それでは、最初に急激な少子化の状況について関係する統計資料を用意しましたので説明させていただきます。3カ年計画を策定するに当たり関連する重要な事項でありますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、子ども課長から説明します。よろしくお願い申し上げます。

○北原子ども課長 それでは、お願いいたします。

資料2と3でありますけれども、資料3から先に説明させていただきたいと思います。

まず資料の3であります。駒ヶ根市の全体の人口の動態について資料を提示させていただいてあります。

まず資料3の1枚目ですが、こちらは人口の自然動態であります。出生数と死亡数の推移でありますけれども、ご覧のように平成17年から19年頃を境として死亡が出生を上回るという状況が続いております。この状況は拡大しているという状況です。

その右ですが、人口の社会動態であります。転入と転出の推移でありますけれども、平成27年頃までは、大きく転入、転出、それぞれ動いていたわけでありましてけれども、それ以降は、転入、転出が少ないということもありますが、動態としても少ない状況になっております。

次のページですが、平成25年の住民基本台帳の人口ピラミッドになります。その次のページには、平成30年7月1日の人口ピラミッドの状況であります。比べていただくと、年齢の低い部分を重ね合わせて見ていただくとお分かりになるかと思いますが、平成25年から30年にかけて少子化が進んでいるという状況を見ていただけるかと思っております。

最後のページは、平成30年の住民基本台帳の人口ピラミッドであります。

まず特徴的なこととして、全国的なことでありましてけれども、この上の濃い太線で囲ってある部分、ここがいわゆる団塊の世代であります。その下の黒い太線の部分、ここがいわゆる団塊ジュニア世代ということになります。特徴的なのは、この下のいわゆる団塊ジュニアの下の団塊的な部分が少ないという状況であります。

最後のページには、このグラフの元となりました人口をお示ししてあります。ゼロ歳233名ということで、まさに団塊の世代から非常に人口も減っているという状況が見えていただけるかと思っております。

続いて資料2について説明をさせていただきます。

資料2につきましては、まず小学校児童数の推移であります。児童数の推移、それから今後その学区における児童の見込み数を資料として提示させていただいてあります。赤穂南小学校、それから中沢小学校、東伊那小学校につきまして25%を超える減少率、平成36年には25%を超える減少が見込まれるという状況にあります。

次に、中学校生徒数の増減になります。

まず下のグラフをご覧になっていただければと思いますが、上の青い線が赤穂中学校の生徒数の推移であります。下が東中学校の生徒数の推移であります。どちらも減少し続けているというところですが、上の表をご覧になっていただきたいと思います。今年の赤中、東中の生徒さんの合計は953名となっております。赤穂中学校が757名、東中学校が196名となっております。平成42年には、赤穂中学校、東中学校、合わせて732名という生徒数になることが見込まれるところであります。いずれも20%を超える減少であります。この平成42年の732名という生徒数は、今年の赤穂中学校1校の757名を下回る数であります。

最後のページは、保育園、幼稚園の入所児童数の推移ということで資料をつけさせていただいております。

一番上が総数になります。やはり少子化の影響を受けまして平成21年1,101名ということですが、こちらは年々減少をしてきたところであります。

ただ、この減少ですが、平成28年頃から余り減少していないという状況になってきております。これは、内訳として資料の中段のところにありますので見ていただきたいと思いますが、まず3歳以上のお子さんについては、現に少子化の影響を受けまして年々減ってきております。平成21年の958名から平成30年には804名ということで、年々減少してきているところではありますが、それに反しまして3歳未満児の入所実績が増加してきているということで、平成21年103名から平成30年が199名ということで、こちらが大きく伸びてきており、ここ何年かは保育園の入所児童数は大きく動いていないという状況になっております。

少子化関係の説明については以上であります。

○北澤教育次長 それでは、説明させていただきました統計資料等を参考にさせていただきます、この少子化の部分から議題ということで検討をお願いできればと思います。

○下島委員 市長さんのあいさつにもあったとおり、また今説明を受けたところですが、この少子化という問題は、言葉はみんな承知しているが、具体的に数字を示されて見ると、その言葉以上に強烈なインパクトがあって、3カ年の中でも、当然その少子化に対することを十分認識して施策を講じていかなければならないことがたくさんあると思います。そういう意味で、この数字を、我々を含めて、内部というよりは、市民も共有して、認識を共有して、施策を講じたり、内外に発信したりしていくと、また市民の皆さんも理解を得られやすいと思いますがいかがでしょうかということです。言うなら、積極的にこの数値化したものを提供してほしい、公表してほしいということです。

○杉本市長 私もこの236という数字が余りにも衝撃的で、それで急遽こういう資料をつくってもらったのが現状です。残念ながら市の職員の中でもまだ共有ができていないというのが現状です。今までも少子化対策で保育料を軽減する、それから福祉医療費も年齢を上げるなどいろいろ行ってきていますけれども、残念ながらこの少子化の対策になっていないです。やってきたことで子どもが増えるところまで行ってないということなので、改めて少子化対策は何をすればよいのかということに実は悩んでいるのが事実です。何をすれば子どもが増えるのか、今までは、保育料を下げます、医療費はかからないようにします、あとは施設もそうですね。それでも残念ながら少子化に歯止めがかからないので、私たちもそうですけれども、今の親世代の皆さんがこんなに少子化になったら世の中どうなってしまうかということを実感しないといけないと思っています。

先ほどの表を見てもらうと、駒ヶ根市には20代の女性が120人とか110人しかいなく、男性は、170人とか150人、5年前の20代と比べてもらうと、本当に20代の女性がいないということも衝撃的なことです。ですから、大学等に出ていった人たちが、この全体の150人なり180人の人たちが、駒ヶ根市から出ていってしまうということです。改めて女性たちの働く場所、どうしたらここ帰ってきてもらえるか、そういうことをしていかない限り大変なことになっていると思います。

今、職員にもこの子育て施策をやる上で、この年代の皆さんの意見を聞きたいと思っています。

聞かないと、我々では理解ができていないのと、やっている政策のギャップがあるのかなと思います。どうしたら子どもが増えるのかということを実際にみんなで考え、いろいろな資料を極力外に出して、みんなが協力していけるようにしていきたいと思います。

○下島委員 ありがとうございます。

○唐澤委員 少子化ということは、人口が減ってくるということになると思うのですが、その中で、学校、保育園などの利用者が減り、その財源も減ってくるということで、施設の維持も困難になってくるのかなということが予想できますので費用対効果の面で統廃合なども必要になってくるのかなと思います。そうしたときに、残すべきものの精査というのは、いつどのようにやっていくかということで、お考えがあればお聞きしたいと思います。

○杉本市長 この前、設備の検討委員会を行いました、その時と比べて余りにも少子化が進み過ぎているので、元から考え直さないといけないのかなと思っています。一応お示ししたのは、経塚保育園を建てかえたので、次は赤穂南と美須津を建てかえの対象にしようということで検討するところまではしています。

○唐澤委員 例えば、学校のトイレを洋式化するとか必要なことではあるけれどお金もかかってくる、でも使う人が少ないとかいうジレンマはあると思うのですが。

○杉本市長 そういう設備にしても、トイレは今度赤小の南校舎でやります。

○北澤教育次長 和式を1つ残して、あとは洋式化していくことで進めています。

○杉本市長 それと、エアコンを考えないといけないです。

あと、全体的な予算執行上の課題は、今これだけ全国各地で災害が発生していますので、かなりの予算が被災地にいきます。ですので、来年度の新規での事業着工はかなり難しいと思っています。今、財務省と話をしているけれど、基本的な社会資本整備はもう終わったと、当面は災害復旧に注力しないと日本がだめになってしまう位の状況です。今回の西日本の災害復旧は、それはものすごいお金です。その前の大阪もあるでしょう。そこに加えて今までの災害の積み残しがどんどん来ているので、相当のお金が被災地にいきます。ですので、新しい仕事は難しい状況の中でも、選択してやっていかななくてはいけません。だから、トイレ作っていたら怒られるかもしれないです。それでもエアコンなど最低限必要なところは整備していかないと、今度は人命の問題になるので、小中学校にかかわらず他の施設も同様ですが、今はそういった状況です。

○唐澤委員 施設はお金がかかるとは思いますけれども、質は落とさないように行っていただきたいと思います。

○杉本市長 いずれにしても今財政的には厳しいです。合併したところはずごく潤っているんです、今合併したところは。その合併算定替と言って、合併前の市町村ごとに算定したものと単独で算定したのを計算して多い方を算定してくれるので、合併したところは、それが終わったときに大変になるということで基金をどんどん積み立てています。だから、合併したところは100億円単位で基金を積み立てているんじゃないですか。本来は10年間で、その合併算定替が終わるはずでしたが、みんな反対するので延長して、もう15年目になります。本当は、これを早く終了して我々の方に交付税をたくさんもらいたいと思うのですが。

ただ、企業が今結構頑張ってもらっていて、本来ですと法人税等がかなり入ってくる予定でしたが、それについても、この間、国の財政が厳しいということで国の方に吸い上げられています。企業の業績が若干良くなってきており、そういう面では税収には期待したいと思うのと、

個人市民税も、ここに来て企業の業績が良く若干増えてきていますので、税収を伸ばしていればそういうお金も出てくるのかなと思います。

○北澤教育次長 よろしいでしょうか。

○唐澤委員 はい。

○北澤教育次長 では、続きまして竜東給食センターの関係でということをお願いします。

○福澤委員 すべてが関係しているので、やはり少子化が始まりに出てきますけれども、今度の給食センターの改修について3案ありますが、新しい中学校というのは、まだ検討中だということで、その流れとしてどういう方向でいくのか、給食センターは、もう老朽化していて早急に建てかえなければならぬ現状で、この3案の中でどう見出していくのかというのは、ある程度議論をしていかななくてはと思うのですけれども、市長さんの考え方はどうでしょうか。

○杉本市長 今のところ、東伊那小学校に新センターを建設し、竜東地区分を担う。下平地区に新センターを建設し、竜東地区を担う。南センターで東中学校分を担い、東小学校に新センターを建設、こんな案で検討しています。今、南小の給食センターは何人分でしたか。

○北澤教育次長 基本的には1,300食で、今1,000食位です。

○杉本市長 今300食くらいの余裕が出てきていますか。今、少子化の問題がここまで思っていなかったのですが、300食減っています。まだ3、4年しかたっていないでしょう。

○福澤委員 施設を新しくすると、いろいろな意見がPTAとか保護者の中から出てくるというのが普通ですけれども、少子化の対策というのは歯止め策と対応策というのがありますが、歯止め策は限定的で、市長さんもいろいろやられてこられたけど効果がなかなか出てこないというのが見えているので、対応策というのは、いろいろなコミュニケーションをとったり議論をしたりして改革していくということが必要だと思います。

○杉本市長 わかりました。

○北澤教育次長 それでは、高校再編について、お願いします。

○北原教育長職務代理者 先ほど市長さんのごあいさつの中でも高校のお話が出ましたが、先日、県教委との懇談会に出させていただき、上伊那で一番先に協議会が立ち上がりまして検討が始まったという報告もあり、他の通学区でも、そういう協議会で検討して欲しいという県からの要請もありました。やはりこれも少子化の波がそのまま影響するものですから、いずれかどうにかしないといけない問題だと思います。

ただ、駒ヶ根市教委として考える問題ではないとは思いますが、たまたま駒ヶ根市でも赤穂高校と駒工と2校高校を有しているわけですので、今後どんな方向になるかなということは、まだ分からないとは思いますが、先ほど特色ある学校とか、郷土愛を持ってとか、子どもたちに選択肢が与えられるっていうような、そんな特色を持ってというお話もありましたので、どんな方向に進んでいくのかなということが、現段階で市長さんの御意見としてお聞かせいただければと思います。

○杉本市長 8月10日に赤穂高校同窓会の皆さんが集まりますので、私も出席していろいろな意見交換をします。駒工の方も今そんなような考えがあって、同窓会も動き出していますかね。

現実的に、子どもの数は40年後に上伊那全体で1,000人位減ります。これからいろいろ進めていく中で、規模だけの議論で高校再編を考えていくのか、規模だけではなくて質の問題でやっていくのかということが問われると思います。それは、地域の皆さんがこの地域にどういう学

校があれば行きたくなるのかということに尽きると思います。だから、そういった地域の要望する教育の場所を県教委がどこに用意するかということかなあとと思います。私たちが高校をどうするかということは、県教委の一番の権限なので、私は、地域にこういう学校が欲しいとかどんどん要望して行って、その要望に応じるために、県教委として考え、地域の皆さんに問いかけていくことが良いと思っています。

高校再編について第3回目を9月に行いますが、その前に飯田のO I D Eをみんなで1回行って話を聞いてくるつもりです。また、塩尻が総合学科というものを行っていますので、そういうところの意見も聞いて次に進みたいと思っています。

私は、教育長さんもよく言われますけれども、高校の先生たちが自分たちでどういう学校をつくりたいかということをもっと出してもらいたいです。内なる改革じゃないけど、外がやるのではなく、本来は県の教育委員会が学校にいる先生たちと一緒に地域の要望に応えるためにこれからどういう方向にしていくかということをもっと議論してもらいたいです。

特色っていろいろな特色があるので、例えば、スポーツで有名になるような学校があってもいいじゃないかとか。だから、私立の場合は、どちらかというと特色を出すようにして集める努力をしましょう。上伊那の高校は、中学生が高校を見に行きますが、帰ってきてからどうと聞くと行きたいという人は少ないと、だから上伊那は魅力がないのではないですか。もう200人近い人が、上伊那からこの8通学区以外のところに行ってしまうています。そして、スポーツの強い人は、残念ながら地元の高校へは行かないです。

この間も、議論している中で、地域の要望に応えるために、先生たちが十分それに対応できない場合はどうするかという質問をしたところ、将来的には、やはり地域の皆さんにも学校を支えてもらわなきゃいけないというような話がようやく出てきました。企業側からすれば、必要があれば幾らでも人材を派遣するという。だから、そういう方向にしていかないと、これからは難しいという意見が出ています。

○北原教育長職務代理者 ありがとうございます。

第1回目の高校再編のときに、上伊那は箕輪進修が多部制になった位ですので、なかなか近々の課題と皆さん思っていなかったのではと思います。統合ばかりが再編ではないですし、例えば総合学科高校など、どんなものなのか自分が行った高校のことしかわからないので、子どもたちに「こういうところへ行ったらどうだ。」と勧めるのは親の意見が多いと思いますので、一般市民にわかりやすく今後行っていけたらいいかなと思います。

それと、やはり赤穂高校と駒工という地元の学校のことが、保護者でしたらわかるかもしれませんが、何かもっと市民と交流をしていけるような形がつけられたらいいかなと思います。

○杉本市長 上伊那の高校で市民との交流が盛んなのが高遠高校、上農、駒工です。実は、前の改革のときにとても危機感を持っている学校です。だから、駒工で高大連携をやろうということで、私たちも支援しています。駒工の生徒たちは、今上伊那全体でロボットの組み立てをするということで小学生を毎年50人くらい集めて講師で教えています。教わった子どもたちは駒工に行きたいってなる。

高遠高校は、絵画などでものすごく力を入れています。子どもたちが学校へ行って絵画の指導を受ける。だから高遠高校に行きたいとなる。

上農も、今どんどんオープンにして、いろいろな人と販売をするなど市民との交流が多いので、

上農へ行ってこういうことをやりたいと。

ところが、普通高校は地域との交流を全く行っていません。ようやく赤穂高校の商業科が、3年前から、そういったプロジェクトとってつくったので、ようやく地域との交流ができました。でも、普通高校は、子どもたちも、その学校の雰囲気も全くわからない。やはり、その辺りが地域と離れてしまっているのではないですかね。教育長さんどうですか。

○本多教育長 この間、南庁舎で高校の先生や各校長先生が集まって、意見交換をしました。その後赤穂高校の校長先生とお会いすることがあり、私自身危機感を持っており、何とか動きたいと申ししておりました。

○杉本市長 本当に高校の人たちが自分たちの高校に来てもらいたいなら、どんどん動かなきゃいけないです。私たちが、なぜこういう協議会を早く立ち上げたかというところ、昨年8首長で危機感を持って、このままいくと、この辺りの上伊那の高校はもうなくなってしまう、魅力がない学校には行かない。魅力があれば、遠くても行く。諏訪や茅野辺りからは、もう山梨へどんどん行きます。山梨には特別強いところがあるから、みんな行ってしまおう。中高一貫校を一生懸命やっても魅力になっていないので全然だめです。普通高校自体の魅力がなくなっています。

それからもう一つは、学校が古い。エアコンだとか、トイレだとか、何も変わっていないので。

○北原教育長職務代理者 私も日々母校へは部活の指導に伺うので行きますけれども、私の頃のロッカーがまだ使われていたりですとか、部室もそのままだったりというところが多くて、お手洗い、まあまあ様式にはなっていますけれども汚かったです。なので、私もその協議会の1回目に伺い、協議会から意見聴取を何回かされましたので意見を出させていただいたのですが、やはり高校がもっとPRして欲しいということと、施設設備をしてもらえたらいいなというお話をしました。

○杉本市長 高校再編は、やるなら本来なら我々が協議会をつくるのではなくて、県教委と学校で一生懸命やればいい話です。今そういう意見がたくさん出てきているので、それに対して県教委がどう応えるかということだと思いますのでキャッチボールをしながら進めていきたいと思えます。

○北原教育長職務代理者 ありがとうございます。引き続きよろしく申し上げます。

○杉本市長 はい。

○北澤教育次長 ありがとうございます。

次に、3カ年の中で地域交流センター（赤穂公民館）等の施設整備を進めていますが、それに関連してお願いします。

○北原教育長職務代理者 引き続きよろしくお願いたします。

赤穂公民館の件で、内容を見せていただいておりますけれども、やはり市民の皆さんから、ハードが整ってくれば、中身のソフト面について意見が飛び交っているところです。現段階で、赤穂公民館の利用、駒ヶ根文化センターの利用とどのように連動していくのか、その辺がどの程度進んでいるのかをお聞かせいただければと思います。

○杉本市長 主なところでは、公民館長さんを置いて、公民館機能はそのまま持っていきたいと思っていますので、その辺は可能だと思います。ただ、それをトータル、総合的にコーディネートする人をどうするかというところは、まだこれから決めるところです。一番は、文化センターがありますので、文化が何かということをやはり発信するような組織をもう少しつくった方がいい

いと思います。それは、文化振興事業団にも、文化の振興をどう発信していくかという話を聞きながら形をつくっていきたいと思っています。

あとは、施設的には、今度できる小ホールは、ある程度専門的な人がかかわらないといけないので、それは文化会館の大ホールの人たちと一緒に管理してもらうような仕組みをしていけたらいいのかなと思います。

ただ、公民館としての機能は同じですので公民館としてやっていきます。ですので、公民館の小ホールといっても使用料を取るような施設ではないということになるのかと思っています。普通の文化館の小ホールとは少し違うのかなと思っています。そうしていったら広くみんなに使ってもらうような施設にしたいと思っています。

○北原教育長職務代理者 かなり皆さん興味を持たれていますし、期待もされていると思いますけれど、やはり公民館は公民館でしょうし、公民館として今まで使ってきた部分は大切にしていけないといけないと思います。

○杉本市長 今度、文化会館の小ホールが体育館みたいな感じになっているので有効活用ができるのではないですかね。

○北原教育長職務代理者 ただ、費用面で、文化会館を借りるとお金がかかるけど、公民館は若干になってくると、それもどうなのかなあと思うのですけれども。

○小出社会教育課長 利用体系は、全体をもう1回見直すことになっています。多くの皆さんに御利用いただけるようにしていくというのがこれまでの公民館の立場です。ただ、全体のバランスをとらないといけないのでそこはまた検討していきます。

公民館は、交流施設であって興業のための実費的などころはあるかもしれませんが、多くの皆さんが交流利用するものです。

○杉本市長 今の公民館のグレードが良くなったという感じにしていけないのかなあと思っていますが、いずれにしてもそれも相談します。

○北原教育長職務代理者 わかりました。

○北澤教育次長 3カ年の中で、ここにはない部分も含めて何かありましたらお願いします。

○唐澤委員 今の公民館に関連してですが、やはり使い方も大事だと思います。イメージ的に、若い方は公民館を使う率がすごく低いと思いますので、若者に使ってもらって、若い人が地元の魅力を持って住むためには、そこで何か文化的なことができるとか、講座が充実しているとか、そういうことがすごく大事だと思いますのでそういうところを進めいくのが良いと思います。

○杉本市長 今、街の中で、土日にライブをやっているのですが、あれは全国からいろいろな人が来ています。本当に頑張ってもらって、自分であそこをつくることから「若い人を集めたい。」と言って、今はバンドも全国から何組か来て演奏しています。だから、ああいう人たちの発表の場にもしてあげれば、若い人たちも含めていろんな人が集まるのではないかなと思います。

○唐澤委員 講座といいますか、サークルといいますか、音楽も含めて、何かそういうことで地域に魅力を感じてくれるといいなと思います。

○杉本市長 カルチャーセンター的なことが強くなり過ぎているところがあるので、本来の公民館活動が何かというのは、ぜひまた教育委員会含めて考えてもらいたいところです。

社会教育のあり方というのは、やはり時代とともに大分変わってきていて、今も講座が主体になっているのかな、趣味の講座的なものをどこまでやるのかというところがあるのではないです

か。

○唐澤委員 そうですね。公民館に頼るのではなくて、若い人たちが、少なくとも自分たちがクラブみたいなものをつくって、その会場として安く借りられるというふうになって欲しいと思います。

○杉本市長 本当は、それぞれの地区にいきいき交流センターとかの施設がかなりできているのもっと使ってもらいたいです。施設は何でも公民館を使うのではなく、市内のいろいろの施設を共有してもらえればいいかなというのが私の一番の思いです。何でも、そこに集めるという時代ではないので。今あるものを有効活用していかないと、いきいき交流センターだけでも全部で40カ所以上つくりましたかね。もったいないです。総合的に施設を有効活用していただきたいと思います。

○北澤教育次長 よろしいですか。

○唐澤委員 はい。

○北澤教育次長 ほかにはよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○北澤教育次長 それでは、これから3カ年の実施計画の策定に入っていきますので、今回いただきましたご意見については、また調整して定例教育委員会も含めまして報告、検討していければと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして第2回の総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午前11時06分 閉会